2026 年 1 月 18 日

カトリック麹町教会　＜ミサがわかるセミナー＞　2025 年～2026 年

年間テーマ：旅する神の民とミサ～喜びと希望を共に！

第5回　交わりの儀と派遣の祝福

「ミサに参加することはご聖体をいただくこと」。このこと自体は間違いではありませんが、ミサの目的はご聖体をいただくことだけではないように思います。ミサの開祭もことばの典礼も、また感謝と聖別の祈りである奉献文も、交わりの儀の中の聖体拝領に向けて、私たち一人ひとりを整えていきます。そして、キリストのいのちに養われた者は、閉祭を通してそれぞれの生活へと派遣されていきます。ミサを成り立たせている一つひとつの要素は、聖体による交わりと深く結ばれているといえるでしょう。
今回のセミナーではこのことを念頭に置いて、交わりの儀と閉祭（派遣）の意味について考えることといたしましょう。

１．交わりの儀（コムニオ）

感謝の典礼	**交わりの儀（コムニオ）** 聖別されたパンとぶどう酒によるキリストとの一致 一つのパンを分け合う人々の一致	主の祈り・副文 平和を願う祈り・平和のあいさつ パンの分割・平和の賛歌（アニュス・デイ） 拝領前の司祭の祈り 拝領前の信仰告白 司祭と会衆による拝領 〔拝領の歌〕 拝領後の感謝 拝領祈願

＊〔　〕は場合によって省かれることがある要素

「感謝の祭儀は過越の宴であるから、主の御からだと御血は、ふさわしい準備をした信者が霊の食物として拝領することが望ましい。パンの分割やその他の準備の儀式はこれを目指しており、これらの儀式によって信者は直接、拝領へと導かれる。」（「ローマ・ミサ典礼書の総則」80、以下「ミサ総則」と表記）

・交わりの儀：コムニオ（共有・一致・交わり）の儀
・コムニオに向けて備えるための式

主の祈り
「主の祈りでは、聖なるものが聖なる者たちに与えられるように、キリスト信者にとってはとりわけ聖体のパンも暗示されている日々の糧を求め、罪から清められるように祈る。」（「ミサ総則」81）

・コムニオに備える祈り（ミサ以外のときの拝領や病者の拝領のときにも唱える）
・神の国の到来・日々の糧・罪からの清めを願う

マタイによる福音書（6･9-13）	ルカによる福音書（11･2-4）
天におられるわたしたちの父よ、 御名が崇められますように。 御国が来ますように。 御心が行われますように、 天におけるように地の上にも。 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。 わたしたちの負い目を赦してください、 わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。 わたしたちを誘惑に遭わせず、 悪い者から救ってください。	父よ、 御名が崇められますように。 御国が来ますように。 わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。 わたしたちの罪を赦してください、 わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。 わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

・神の国、神の愛の実現を願う祈り（マタイ 6･9-13、ルカ 11･2-4）
・福音全体の要約（テルトゥリアヌス）
・最も完全な祈り（トマス・アクィナス）

福音の本質的な内容を祈りとしてまとめたもの

天におられるわたしたちの父よ。

「父よ」
・「アッバ、父よ」（マルコ 14･36、ガラテヤ 4･6、ローマ 8･15）
・神への絶対的な信頼
・自らを「幼子のような者」（マタイ 11･25）に示す神

「わたしたちの」
・神の民である「わたしたちの」神
・心から他者のために祈ること･･･連帯
・個人主義（＝私中心）からの解放、相互の交わりの中で

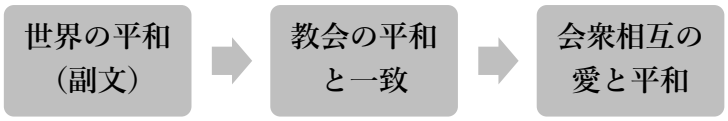
「天におられる」
・すべてを超越する神の偉大さ
・正しい人の心の中にいる神
・天･･･わたしたちが目指す目的地、祖国

父なる神に対する七つの願い

三つの願い	四つの願い
み名が聖とされますように。 み国が来ますように。 みこころが天に行われるとおり 　　地にも行われますように。 祈る人の心を神（＝あなた）に向かわせる	わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。 わたしたちの罪をおゆるしください。 　　わたしたちも人をゆるします。 わたしたちを誘惑におちいらせず （わたしたちを）悪からお救いください。 わたしたちの必要のための願い

平和を願う祈り・平和のあいさつ

「続いて行われる平和のあいさつによって、教会は自らと人類家族全体のために平和と一致を願い求め、秘跡において一つになる前に、信者は教会の交わりと相互の愛を示す。」(「ミサ総則」82)



パンの分割

「最後の晩餐でキリストが行われたパンを裂く動作は、使徒時代には感謝の祭儀全体の名称となり、大勢の信者が、一つのいのちのパン――それは世の救いのために死んで復活したキリストである――にともにあずかることによって、一つのからだとなることを意味している（一コリント 10･17)。」(「ミサ総則」83)

「司祭はパンを裂き、その一部をカリスの中に入れる。これは、救いのわざにおける主の御からだと御血の一致、すなわち生きていて栄光に満ちたイエス・キリストのからだの一致を明らかにするためである。」(「ミサ総則」83)

平和の賛歌（アニュス・デイ）

「通常、「神の小羊」という嘆願は聖歌隊あるいは先唱者によって歌われるか、少なくとも大きな声で唱えられ、会衆はこれに応答する。この嘆願は、パンを裂く式に伴って行われる。そのため、この式が終わるまで必要なだけ繰り返すことができる。最後の回は、「平和をわたしたちに」のことばで結ぶ。」(「ミサ総則」83)

拝領

「司祭自身に義務づけられているのと同じように、信者が、そのミサで聖別されたパンから主の御からだを受け、許容される場合は杯にもあずかることは、非常に望ましい。それは、拝領が、現にささげられているいけにえへの参加であることが、しるしによってもよりはっきりと表現されるからである。」(「ミサ総則」85)

・行列：行動的参加。主と出会うための信仰告白の行為
・聖体拝領：communio ＝ 交わり・一致　→　誰との交わり・一致か？
・「キリストの御からだ。」「アーメン。」
　キリストのからだである聖体に対して
　自分もキリストのからだとなることに対して

拝領の歌

「司祭が聖体を拝領している間に、拝領の歌が始まる。それは、拝領者の霊的一致を声の一致で表現し、心の喜びを示し、聖体を受けるための行列の「共同体的な」特徴をより際立たせるためである。」(「ミサ総則」86)

拝領祈願

「神の民の祈りを締めくくるため、また交わりの儀全体を締めくくるために、司祭は拝領祈願を唱え、

祝われた神秘の実りを祈り求める。」（「ミサ総則」89）

２．閉祭～派遣の祝福

閉祭	祝福 生活の場への派遣	〔共同体へのお知らせ〕 あいさつ･派遣の祝福 〔閉祭の歌〕

＊〔　〕は場合によって省かれることがある要素

おもな要素

・お知らせ：地域の共同体の活動とのつながり
・司祭のあいさつと祝福（場合によって荘厳な祝福）
・派遣
・(閉祭の歌)

派遣のことば

感謝の祭儀を終わります。
　行きましょう、主の平和のうちに。
　行きましょう、主の福音を告げ知らせるために。
　平和のうちに行きましょう、日々の生活の中で主の栄光をあらわすために。

「自分たちの行ってきたことの意味を理解している信者にとって、感謝の祭儀は、教会の扉のところで止まってしまうものではありません。復活の最初のあかしにあるように、キリスト者は復活した主がおられることを体験し、それを告げ知らせるために日曜日ごとに集まって、日々の生活の中で福音をのべ伝え、あかしするよう呼びかけられています。ひとたび集会が解散すれば、キリストの弟子たちは生活全体を贈り物とすること、すなわち神に喜ばれる霊的ないけにえ（ローマ 12･1 参照）とする決意をもって、日々の生活の場に戻ります。」（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『主の日』45）

「ミサが終わったときにはいつも、始まったときの自分よりも、より生き生きと、よりパワフルに、キリスト者としてあかししたいという熱い思いを強くしていなければなりません。聖体を通して主イエスがわたしたちの中に、この心とからだに入れられたのですから、信仰をもって受けた秘跡を、生活の中で表すことができるでしょう。」（教皇フランシスコ「ミサについての連続講話」）